

# ▼最近までJKだった新妻が痴漢電車で寝取られ絶頂!?

2022 カオティックちくわ

## //トラック1

「ふああ……  
こんな朝早くからお仕事なんて……」

「最近、忙しそう……  
お仕事って、大変なんだね」

「でも……無理はしないでね。  
綾香は、あなたの体が一番大切だから」

「はい、お弁当。  
今日も一日、お仕事頑張ってね」

「いってらっしゃいのちゅー、しょ？」

「んちゅつ……んつ、ちゅつ……あふうつ……  
ちゅぶ……んんつ、れるる……はあ……」

「はあ……うう、寂しいよお……  
でも、お仕事だもん。我慢するう……」

「いってらっしゃい。  
早く帰ってきてね、待ってます……」

「はあ……行っちゃった……  
寂しいなあ……」

「最近、本当に忙しそう。  
新婚なのに、全然一緒にいられないし……」

「……夜の方もおあずけで……  
はあ……えっちしたいなあ……」

「ダメダメっ！  
あの人が一生懸命お仕事してるんだもん」

「新妻の綾香も、一生懸命家事しなくちゃ。  
まずはお掃除……」

「きやっ！？ びっくりした……。  
あの人からだ……」

「あなた？ どうしたの？」

「テーブルの上の紙袋を、  
会社に持ってきてほしい？」

「大事な書類が入ってるのね、わかった。  
今すぐ届けに行くね！」

(間)

(以下、モノローグ)

「駅に来るの、久しぶりだなあ。  
結婚してから、近所のスーパーくらいしか行ってないもん」

「あの人のこと考えて家事してると、一日終わっちゃう。  
電車なんて、高校卒業してから乗ってないかも」

「そんなに前じゃないけど、  
JKとお嫁さんじゃ環境が変わりすぎて、凄い昔のことみたい」

「あれ？ 駅、すごく混んでる……。  
朝の通勤ラッシュって、こんなに凄かつたっけ？」

「あっ、人身事故があつたんだ……。  
うう、頑張らないと……。」

「あうつ……そんなに、押さなくて……わ、わわ……。」

「ふう……なんとか乗れた……。」

「あ、あれ……  
周りの人、サラリーマンばっかり……。」

「結婚してから、あの人以外の男の人に会つてないから  
ちょ、ちょっと、怖いかも……。」

「あ、ドアの横のところ、少し空いてる。  
あそこに行つたら少しは……。」

(モノローグここまで)

(肉声)

「す、すみません。通ります。  
んしょ、んしょ……ふう……。」

(モノローグ)

「やっぱり、ここは少し余裕があるなあ。  
よかったです～……」  
(モノローグここまで)

(肉声)  
「きやんっ……！  
あ……ご、ごめんなさい……」

(以下、モノローグ)

「と、突然お尻に、誰かの手が当たったから  
びっくりして、声出ちゃった……」

「手、お尻に当たったままだけど……  
こんなに混んでるんだもん、仕方ないよね」

(モノローグここまで)

(肉声)

「あっ……？ んつ……！」

(以下、モノローグ)

「嘘……！ 手が、もぞもぞって動いて……  
綾香のお尻、撫でてる……」

「こ、これって、偶然じゃないよね。  
う、後ろの人、痴漢さんなんだ……！」

「怖い……怖くて、体が動かないよお……  
ど、どうしよう……！」

「やだ……っ！ 軽く触るだけだったのに、  
掌で、べたって、お尻を触って、撫でてる……」

「うつ……ひっく……こんなこと……  
にしか、されたことなかったのに……」

「知らない人が、綾香のお尻を揉んでる……  
怖い、怖いよお……」

「綾香が抵抗しないから、エスカレートしてるんだ。  
でも、怖くて声が出ない……」

「助けて……  
怖いよ、あなた、助けてえ……！」

「やだっ、スカートめくられてる……！  
だ、だめだめえっ！ パンツ見えちゃう……！」

「今日の……下着……

あの人们にも、まだ見てもらつてないのに……」

「あの人の為に選んだ、可愛い下着……  
も、もし……見られたら……はう……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小声で)

「お、お願ひです……  
もう、やめて……くださ……んっ！」

(以下、モノローグ)

「う……うそ……ぱ、パンツ、触られちゃつた……  
いやあ……なんで、こんな……」

「お尻のところ……全部レースになってる……  
えっちなパンツ、触られてる……知らない人に……」

「あ……や……両手で揉む、なんて……  
はう……手つき、やらしいよお……」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小声で)

「あ……や……ダメ……  
はあ……やめて……ください……」

「あの……今なら……あつ……  
だ、誰にも……言いません、からあ……んっ……」

(以下、モノローグ)

「なんで……綾香……感じちゃってるの……  
あの人以外の……男の、人にい……」

「うう～～……こんなとこ、  
もしあの人に見られたら、絶対嫌われちゃう……！」

「ヤダヤダ、そんなの絶対ヤダ……  
綾香がエッチしたいのは、あの人だけなんだから……！」

「なんとかして、やめてもらわなくちゃ……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

「ほ……本当に……あつ……いやあ……  
お願い……お願いですから……これ以上は……！」

「きやあんっ！」

(はっとして口を塞いで)

「んんっ！ ん……んんう……」

(モノローグ)

「おまんこ……触られちゃった……  
あの人以外に、触られたことなかったのに……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小声で)

「だめ……そこは……  
夫にしか……触られたことない……あつ……！」

(息を潜めて)

「あつ……そんな……指で……くすぐるみたいに……  
されたら……ん……ふ……あ……ああ……んう……」

(モノローグ)

「何本も……指が……おまんこくすぐってる……  
んう……こんなことされるの……久しぶりで……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

(息を潜めて)

「あ……や、んんっ……！ は……ああ……  
お願いです……許して……ください……」

「綾香は……夫しか……男の人……  
知らないんですう……お願いです……」

「ひあ……っ！？ う、嘘……今、ぬちゅぬちゅって……  
えっちな音、して……なんで綾香、濡れちゃってるの……？」

「あ、やつ、強く、しないで……はああつ……  
くちゅくちゅ、聞きたくないのおつ……あ、ああつ……！」

(以下、モノローグ)

「あうう.....パンツごしに、指でおまんこ開かれてる.....  
恥ずかしいのに.....嫌なのに、こんな、気持ちいい.....なんて.....！」

「違うの、あなた.....こんなの、綾香じゃないから.....！  
最近、ご無沙汰だったから、敏感に.....なってるだけで.....」

「綾香の身体を好きにしていいのは、  
あなた、だけ.....なんだからあ.....んんっ！」

「あっ.....やだ.....指が.....おまんこの間を擦ってる.....  
探してるんだ.....綾香のクリちゃん.....」

「うう.....この痴漢さん、綾香の好きなどこばっかりいじめようとする.....」

「なんで、綾香がクリちゃんいじめられるの、大好きってわかっちゃうのお.....  
の人だけが、知ってるはずなのにい.....」

「やあ.....だめ、ダメエ.....今、クリちゃん.....絶対に、  
勃つちゃってるから、あうう.....触られたら.....綾香.....綾香.....っ！」

(モノローグここまで)

(肉声)

(声を殺して)

「んんんんっ.....！ んんっ！ んんんんんっ！！」

「んんっ.....指.....止め.....てえ.....  
あ.....つよ、いい.....あ、あ、あ、ああっ.....！」

(以下、モノローグ)

「あああん.....っ！ 男の人の指だ.....  
強くて.....太くてえ.....気持ち、いい.....」

「強い力で.....クリちゃんコスコスって.....  
自分でするより.....ずっと.....いいよおつ.....！」

「あああああああ.....はあつ.....ああああんっ.....！  
あ.....ああ.....くる.....すごいのくる.....！」

「あの人じゃないのに.....！  
ち、痴漢さんなのに.....！」

「もう、いっちょう.....！  
初めて、あなた以外の男の人で、いっちょう.....！」

(肉声)

「きやつ！？ あ……もう、駅……  
ご、ごめんなさい！ 降りません、乗ります！」

(以下、モノローグ)

「ふう……降りる人に流されて、  
乗りそびれるかと思っちゃった」

「……痴漢さん……もう、いないよね」

「……もう少しで、イキそうだったな……  
すごい上手で、気持ちよくて……」

「ん……おまんこがまだ疼いてて、切ない……  
はあ……あそこで終わって、残念……かも……」

「なんて、だめだめ！ 綾香は奥さんなんだから！  
他の男の人にイカされたい……なんて絶対にダメ！」

「それにしても、痴漢なんてビックリしたなあ。  
でも……まだ綾香に女として魅力があるってことだよね」

「あの人気が最近えっちしてくれないの……  
もしかしたら、忙しいからだけじゃなくって……」

「綾香がJKじゃなくなったからかも……って思ってたけど  
まだ自信持ってていい……んだよね！」

(モノローグここまで)

(肉声)

「ああんっ……！」

(声を殺して)

「んんんんっ……！」

(以下、モノローグ)

「ま、またお尻触られてる……！  
イキそうで敏感になってるから、すごく感じちゃう……！」

「この触り方……さっきの人だ……  
あう……身体が、覚えちゃってる……気持ちいいよお……！」

「だ、ダメ……！ 綾香はあの人のものなんだから……  
手が当たらない位置に逃げなきゃ……！」

「もう少し、前の……隅の所に行けそう……

少し進めば、手が届かなくなるかも……」

(モノローグここまで)

(肉声)

「ん……んう……よい……しょ……っと！」

(モノローグ)

「ふう……これで……  
痴漢さんから逃げられたはず……」

(肉声)

「きや……あ……つ！ んん……つ！  
やだ……何で、付いて来て……や……あん……」

(以下、モノローグ)

「う、うそ……背中にも……お尻にも……  
ぴったり、痴漢さんの体が密着して……はうう！」

「お、お尻に……おちんちん当たってる……  
硬くて……熱くて……おつきい……」

「あの人以外の……勃起ちんぽ……  
あう……な、なんで……こんな立派なの……」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小声で)

「あ……あの……当たってますう……  
ん……んう……や……擦り付けないでえ……」

「ああっ……！ あ……んふ……やあ……」

(以下、モノローグ)

「ひやつ……スカート……めぐれて……！？  
お尻の割れ目に……おちんちん、ハマっちゃうよお……」

「はあ……この人のおちんちん、すごい……  
こんなの……擦り付けられたら……ダメになっちゃうう」

「自然に、お尻が動いちやう……  
おちんちん、もっとおつきくしたくて……」

(モノローグここまで)

(肉声)

「あ……ん……ふ……んう……  
違うのぉ……体が、勝手にい……あつ……」

(以下、モノローグ)

「おちんちん、またおっきくなつた……すごい……  
お尻でこうするの、JKの頃、あの人に教わつたんだよね」

「あうう……綾香、あなたに教わつた……あなたが好きな動きで……  
痴漢さんの勃起ちんぽに……奉仕しちゃってる……」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小声)

「あ……て、手が……  
だめ……だめですぅ……」

(以下、モノローグ)

「手が……おまんこ撫でてる……わかる……  
これから、クリちゃん弄るよって、指で合図してる……」

「ダメなのに……期待しちゃうう……  
あなた、ごめんなさい……もう……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

「んんうつ……！  
は……はあ……はあ……あ……」

(モノローグ)

「クリ、すごくおっきくなってる……！  
それを……指二本でコスコスしたり、挟んだりされたら……！」

「気持ちいい、もうだめ、いっちゃう……  
痴漢さんの指で、いっちゃうよお……！」

(肉声)

「だめ……もう……  
んうつ……！ んんんんんんんつ……！！」

「は……あ……いっちゃった……

初めて……あの人じゃない……男の人で……」

(モノローグ)

「ひ、久しぶりだからだもん……  
じゃなきゃ……あなた以外の人に……こんな……ひう！？」

(肉声)

(小声で)

「あっ……ま、待ってえ……  
下着の紐……解いちや……！」

「夫の為に、えっちな下着選んだんです……！  
夫以外は、解いちやだめ……お願い……やだあつ……！」

(モノローグ)

「紐パンの片側ほどかれちゃった……！  
う……ごめんなさい……あなた……！」

(肉声)

「ひや……ん……指、だめえ……  
綾香のソコに、直接触っちゃ……んう……！」

(モノローグ)

「パンツが緩んで……下着の脇から指が入ってくる……  
今、クリちゃんを直接触られたら……！」

(肉声)

「あっ、ああっ、指、凄いのお……  
あ、綾香……また、いつ……んんんんんっ！！」

「は……はあ……あっ、指、待って……  
入り口は……だめ……本当にだめえ……」

「そこは……一生、夫だけがいいの……  
お願い……あっ……ひっく……んんうう……！」

(以下、モノローグ)

「指……入っちゃった……んう……感じるう……  
痴漢さんの指に……じゅぼじゅぼされて……」

「お尻に当たってる……  
痴漢さんのおちんちんも……もうバキバキ……」

「指じゃなくて……  
おまんこに、このおちんぽが欲しい……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

「あっ……！ ナカのそっちは……だめ……！  
綾香、そこ弱いから、触られたら……んんんんっ！」

「指、やつ、止めて、お願いい……んんっ、  
また、また……んんっ、んんんんんっ……！」

「は……あ……もう……だめ……許して……  
これ以上は……もう……」

(モノローグ)

「あの人以外の人のおちんちんが欲しくて……  
我慢できなくなっちゃうから……」

(肉声)

「あっ……！」

(以下モノローグ)

「何で……そっち、違う……  
んっ……おまんこじゃなくて、お、お尻に……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

「嘘……お、お尻は……くううううんっ……！」

(モノローグ)

「お尻の穴の周り……おちんちんで  
擦られてる……！ 嘘……そこは……」

「あの人にはいっぱい責められて、感じるようになったの……  
そこで感じるのは、綾香の秘密なのに……！」

「な、なんで感じるってわかるのぉ……！？  
変だよ……こんな……こんな……あうう……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

「はあ……はあ……だめ……もう……声、我慢できない……  
周りに、ばれちゃいますからあ……」

「お願ひ……もう、許してえ……！」

## //トラック2

(肉声)

「はあ……ああ……」

(以下、モノローグ)

「あの人の会社がある駅……  
まだいくつか先……」

「もし、それまでこの人が下りなかつたら……」

「綾香……痴漢さんと……しちゃうの……？」「  
だめだめ、そんなの……でも……！」

「あうう……綾香、おかしくなつちやつたのかな……  
このおちんぽで……ハメハメされたくなつちやつてる……」

(モノローグここまで)

(肉声)

「あ……や、おっぱい……  
揉み揉みしないで……はう……ん、や……っ！」

「あんつ……ふう……はあん……  
綾香はおっぱい、揉まれちゃだめなんですう……」

「お、夫と約束したんですう……  
綾香のおっぱいは、夫が揉んでおつきくしたからあ……」

「他の男の人が、触りがっても、触らせちゃダメって……  
約束、約束したのに……んんつ、はう、あ……」

「んんうつ……そこ、乳首……はううんつ……  
コスコス、いやあ……んう……ああ……あふ……んん……」

「あう、あ……やつ……腰……動かさないで……  
どっちも、されたら……綾香……変に、なっちゃいます……」

「あ、や、いやあ……音で、バレちゃう……！  
お願ひです……もっと、静かに……あ、あ、あっ！」

「うそ、いや……やだ、あ、綾香、イク、イっちゃ……  
また、痴漢さんに……んうつ……ん、んんんんんんつ……！」

「はあ……はあ……あう……はふ……  
も……立ってられない……」

(間)

「……あ、ありがとうございます……支えてくれて……」

「……あ、あの……もう、満足ですよね？  
綾香……たくさん、イカされちゃいましたし……」

「あ、あの……そろそろ、  
離して……もらえると……ひやうつ！」

(モノローグ)

「あ、そんな……先っぽ……おまんこの、入口に……  
あ、んつ……や、だめ……だめ、なのに……」

「腰、勝手に動いちゃう……  
おちんぽ、迎え入れようとして……はあ、あああ……！」

(肉声)

(小声)

「だ、だめっ、だめ……や……ひぐ、んん、んんんつ……！」

「は、入っちゃった……夫以外の、男の人の……  
夫しか知らない、綾香の……お、おまんこに……！」

「こ、これ以上は……だ、だめ……  
根元まで、入っちゃう……あ……そんな、深い……んううつ！」

「あ、あなた……ひっく、ひっく……

ごめんなさい、あなた……あつ……んんんんっ……！」

(モノローグ)

「全部、入っちゃった……あの人しか男の人を知らなかつたのに……  
綾香、痴漢さんのおちんぽで犯されたんだ……」

「ごめんね、ごめんなさい、あなたあ……  
綾香のおまんこが喜んでるう……」

「だ……だって……あなたのちんぽみたいなんだもん……  
あう……おまんこ、またきゅんきゅんしちゃう……」

「ずっと……寂しくて……綾香の指じゃ届かなかつたところ、  
痴漢さんの極太ちんぽで気持ちよくされちゃってるよお……」

「うう……あなたと初めてえっちした時は、  
おまんこがおちんぽに馴染まなくて大変だったのに……」

「痴漢さんは、すんなり入っちゃった……  
長さも太さも……綾香の好きな、あなたのと同じ形してるう……」

「この痴漢さん……前戯も上手いし……  
おちんちんもおまんこにぴったりで……」

「もしかして、相性が良いってこと……？  
そ、そんな……初めて会ったばかりなのに……どうして……」

「これじゃ、綾香……行きずりの痴漢さんとの浮気エッチで満足しちゃう、  
変態さんみたいだよお……綾香、そんな子じゃないのに……」

(モノローグここまで)

(肉声)

「ああんっ……！」

(小声)

「や……やめ……あ……ん……腰……動かさないでえ……  
はあ……ん……だめ……ですう……こ、こんなあ……」

「あん……おっぱい、離してえ……  
おっぱい揉みながら、奥も……なんてえ……」

「あっ……くう……ん……だめ……だめえ……  
やあ……ん……やめて、くださいい……」

(モノローグ)

「痴漢さんのおちんちんが、おまんこジュポジュポしてる……  
どうしよう……本当に、セックス始まっちゃったよう……」

「綾香、おっぱい両手で掴まれて、腰振られて……  
電車で……痴漢さんにレイプされてるんだ……」

「あの人以外とエッチなんて、嫌……  
あの人以外の男の人なんて、知りたくなかった、のにい……」

「奥のイイところ……赤ちゃん部屋の入り口を  
バックからゴチュゴチュされてるう……」

「綾香の、一番好きなところ……指じゃ届かない……  
奥をちんぽで突かれるの、大好きい……」

「あの人をするみたいに、パン、パンって音がするくらい  
激しくされるのが、一番好きだけど……」

「綾香の一番弱いところを先端でゴリゴリしながら、  
おっぱい揉んで、乳首コリコリされてえ……」

(肉声)

(小声)

「はあ……はあ……ああ……んんう……  
は、離して、くらひやいい……らめ……らめなのお」

(以下、モノローグ)

「気持ちいいけど……だめ……  
あの人の為に、ちゃんと拒否しなくちゃ……！」

「少しでも、体を離さないと……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

「ん……んう……これ以上は、もう……  
本当に、ダメですから、離して……」

(モノローグ)

「電車が揺れるう……身体がぐらぐらして……  
おちんぽが擦れて……感じちゃうう……！」

(肉声)

「ひゃあんっ！」

(以下、小声で)

「んんう……今、奥、おちんぽがごちゅってえ……」

「はうっ……！ だ……めえ……  
電車揺れると……擦れちゃう……」

「ひやっ……んんっ……！ ふう……  
はあ……はあ……これ、だめ……」

「次、ナカのどこに当たるかわからなくてえ……  
不意打ちで当たるの、き、きもち……」

「んんっ……！  
はつ……綾香、もう……も……もう……」

「次、ガタンってきたらあ……  
だめ……だめなのに、綾香……くうん……」

「綾香、イッちゃう……かもお……  
やだ、やだよお……はう……ひっく……」

「次で、い、イッちゃう……  
夫じゃない人のちんぽで、初めていっちゃうよおお」

「ひやううっ……んんんう……んんんんっ！！」

「はあ……はあ……ひっく……ひっく……  
綾香、イッちゃった……痴漢さんのちんぽで……」

「あなた、ごめんなさい……ごめんなさいい……」

「あっ……！ ふう……んんっ……ま、待ってえ……  
い、ittaばかりだからあ……動かないでえ……」

「んう……おちんぽ……おつきい、ですよね……  
奥まで……ごちゅごちゅって、当たっててえ……」

「太くて……硬いから……ナカ、ごりゅごりゅって  
擦れてえ……ふう……あつ……気持ちいい……」

(ここまで小声)

(モノローグ)

「あっ……！？ 綾香のばかばかばか～！！」  
い、いくら気持ちいいからって、痴漢さんに何言ってるの～！？」

(肉声)

(小声)

「あっ……ち、違うの……  
綾香は……あの人のものだからあ……」

「他の男の人のおちんぽ、気持ちいいなんて、  
言っちゃだめ……なんですか……でもお……」

「そ、そこ……奥の、そこ、好きですう……  
んくう……はあ……本当に、太いですね……」

「根本のところ……すごく太くて……  
綾香の浅い所……もう広がらないくらい、パツパツで……」

「奥も……入り口も……綾香のおまんこ全部……  
おちんぽでいっぱい……気持ち……いい……」

「ひやううんっ……おっぱい、そう、それ、好き……  
乱暴なくらい、揉んだり、乳首、スリスリされるのお」

「はあ……はあ……感じ……ちやうよお……  
だ、だってえ……久しぶり、なのお……」

「あの人、お仕事忙しくてえ……寂しくてえ……  
新婚なのに、綾香、自分でしてたんですう……」

「は……はあ……でも……綾香の指じや、届かないし……  
おまんことおっぱい一緒に好きなのに、無理だからあ……」

「ふう……あん……おちんぽで……男の人の力で……  
ずっと……エッチしたかったんですう……」

「ふつ……ひっく……ひっく……で、でも……  
あなた以外の人とは、一生したくなかったよお……」

「あなたとしか、えっちしたことない体で、生きたかったのにい  
ふつ、あうう、体が感じる……感じちやうよお……」

「ああつ……！」

「ど、どうしてえ？ 綾香、ナカのそこも好きだって、  
どうしてわかるのお……？ だ、だめ、そんなにしちゃ……」

「またイッちやうう……くう……ふう……んっ……  
やらあ……やあのお……もうイキたくないよお……」

「あの人のおちんぽでイキたいのお……  
おっぱい揉むのも、おまんこに挿れるのもあの人人がいいよお」

「あうう……待って、待ってえ……  
強くしないで、イイ、イイからあ……ああつ……」

「うう、知らない人なのに、痴漢さんなのにい……  
感じちやうう……やだあ……もうやらよお……」

「や……なのにい……綾香の体、あの人開発されてるから……

弱いところ責められたら、感じちゃうよお……」

「あなたとえっちする為に、感じやすくなったのにい……  
痴漢さんのちんぽで……綾香……いらっしゃいますう……！」

「ふうつ、くううううううんっ……！」

「ああ……は……はあ……はあ……」

(以下、モノローグ)

「また……イッちゃった……」

「でも……どうして、綾香の弱い所とか……  
好きな強さとか、動きとか……わかるんだろう……」

「すっごい上手な人だと、わかるものなのかなあ。  
あの人しか知らないから、他の人がどうかとかわからないよお」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小声)

「あっ……！ まだ、動かないでえ……イッたばかり……  
はう……敏感なの……お願い、お願い……」

「ああっ……はあ……腰……早いい……  
激しい……ですう……お願い、待ってえ……」

「少しだけ……休ませて……気持ちいいからあ……  
待って……待ってえ……ああ……はあんっ……」

「んんっ……おちんちんがあ……ドクンドクンって……  
い……イキそう……なんですか……？ い……く……」

「あっ……、だ、だめ、出しちゃダメ……  
それは、本当にだめ……お願い……抜いてください……」

「ああっ……んう……やだ……腰、そんなにされたら……  
綾香も……イッちゃうう……はうう……あああ……」

「はあ……ねえ……ぬ、抜かなくても、いいです……  
あう……んんっ……は、はあ……このままで……」

「綾香のおまんこで、ちんぽゴシゴシして、いいです……  
こんな……おちんぽパンパンになってたら……」

「辛い……ですもんね……綾香もイキたい……  
だから……このまま……綾香のおまんこ使っていいよ……」

「でも……外で出して……綾香のどこに掛けてもいいから……  
ナカだけは……だめ……だめなのが……」

「先っぽ、赤ちゃん部屋に届いてるのぉ……  
こんな巨大ちんぽにナカ出しだしたら……」

「こんなパンパンの精子、びゅーびゅー出されたら……  
妊娠しちゃうう……赤ちゃん出来ちゃうう……」

「お願い、お願い……外に……外に出して……」

「は……はう……あっ、ああっ、あうっ、  
あ、ああっ、イイ、好き、そこ好き、好きい……」

「ね、ねえ、お願ひ、お願ひです、うんって言って……  
外に出すって約束して……んんんんっ……」

「はあ……精液……上がってきてるんでしょう?  
わかる……わかるくらい……量……凄いの……」

「はあ……おちんちん、熱い……硬い、おっきい……  
おまんこ、壊れちゃうよお……気持ちいい……！」

「あ、ああっ、で、出る？ 出ちゃうの……？  
やら、こんなたっぷり精子来たら、赤ちゃん出来ちゃうう！」

「ふ……あつ……あなた……あなたあ……  
ごめんなさい、ごめんなさい……！」

「お嫁さんしてくれたのにい……  
綾香……痴漢ちんぽに負けちゃうう……！」

「極太ちんぽの精子、赤ちゃん部屋に出させちゃうう……  
ごめんね……あなた……あなた……愛してるう……！」

「は……はあ……もうだめえ……  
いく、いく、いくいくいくいく……っ！」

「あっ……！ きやあっ、出てる……ナ力に出てるう……  
熱い精液、びゅくびゅく奥にかかるって……すごい量……！」

「こんな……こんなの……子宮が喜んでるう……  
あつ キュンキュンする またイっちゃうう ！」

「も、もうだめ……声、我慢できない……！  
気持ちいいもん、あつまだ出るの？ 出るよね？」

「綾香もまたいく、いつちやうう……」

~~~~~ ! !

んうつ、ん~~~~~！！」

(以下、モノローグ)

「ナ力に、ナ力に精液出てる……  
おちんちんビクビクして、ビュルルって精液、奥に掛かって……」

「熱くて、んうつ……！ 赤ちゃん部屋に入ってくるう！  
凄い量……はあ……イイ……子宮が喜んでるう……！」

「お腹がきゅんきゅんする……もっと精子欲しくて  
ナ力締まっちゃう……あ……またくる……くるう……！」

(モノローグここまで)

「ああっ……！」

(以下、口を塞がれ)

「むぐっつ……」

「んんんんんんんんんんんっ……！」

「んう……ふう……ふう……」

(以下、モノローグ)

「口、塞がれてる……  
鼻まで覆われて、苦しいよお……」

「あ……痴漢さんの顔が見られそう……  
目が合つたら、苦しいって伝わるかな……」

「……えっ！？」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小声で)

「もう……何やってるのよ……あなた……」

「……どうして、痴漢のフリなんかしたの？」

## // トラック3

「あなた……どうしてこんなこと……  
ううん……今は、そんなこと、いい……」

「このまま……お仕事行っちゃうの……？  
綾香、今すぐ、もっとあなたが欲しいよお」

「……うん！ ラブホテル、行こ？  
嬉しいよお、すぐ、すぐに行こう」

(間)

「やっと、二人きりだね……んむつ」

「んちゅ……ちゅ……じゅるるる……ふう……ん……  
ん……いってらっしゃいのちゅーみたいにい……ちゅふ……」

「もう我慢しなくていいんだよね……んう……  
もっと……もっと凄いキスしよ……んくうつ……！」

「じゅるるるつ……！ んふうつ……  
あな……たあ……んう……ちゅふ、くちゅくちゅ……ふはつ」

「んちゅ……ふう……くちゅ……ん？  
ん一……確かに、あなたの為に選んだ下着だけど……」

「下着姿を……そんなじつと見られるの……  
恥ずかしいよお……ね、この下着、好き、かな？」

「よかったです……え、綾香が脱いでるところ見たいの？  
恥ずかしいけど……あなたがそう言うなら……」

「ブラのホック……外したよ。ふ、ブラ、脱ぐね……」

「うん……、乳首……勃ってるよ……  
あ、あんなにいじめられたし……期待してるし……」

「それに、はしたないって思わないでね……？  
ほら……」

「見て……パンツの中……白いえっちなお汁で、  
ぐちょぐちょに汚れちゃってるでしょ……」

「全部……綾香のおまんこに……ナカ出しされた……  
あなたの……精液です……」

「ちょっとお……嬉しそうにしないの……  
全部あなたのせいなんだよ……？」

「もー、悪い人ね……  
そんなにえっちな綾香、好き……？」

「ふふ……じゃーあ、綾香が  
たあつぱりお世話してあげないと、だね……♪」

「はーい、ばんざーい。  
お洋服脱ぎ脱ぎしようね～～」

「じゃあ次は……ベルト、外すね……」

「んしょ……えっと、次は……チャック……下ろすね。  
あ、あの……もう、おつきくなってる……よ」

「チャック、痛くないように、ゆっくり下ろすね。  
ん……もう、開け辛くなってる……んしょつと……」

「じゃあ、次はパンツを……わっ……  
ふふ……もうこんなに勃起してるんだ……」

「きやつ……狼さん……  
あなたも、我慢できなくなっちゃったの……？」

「やった……おんなじだね……電車の中だと  
いっぱい声、我慢しなきゃだったから……」

「綾香のこと、うんといじめて……？」

「んちゅ……はあ……ちゅ……んちゅ……」

「もっと、キス……んう……もっとお……  
あなたとベッドでキスするの、久しぶりなんだもん」

「え、限界？ ひやんっ！ ほ、ほんとだ……  
おちんちん、もう、パンパンだね……苦しそう……」

「一回出したいたい……。そうだよね、わかった。  
綾香が手伝ってあげるから、いつ出してもいいよ」

「はあ……あなたのおちんちん見るの、久しぶり。  
くんくん……ふふつ、あなたの匂い……好き……」

「綾香のおっぱいで挟んで、ゴシゴシしてあげる。  
んしょ……わあつ、もう我慢汁が……ヌルヌル……」

「んしょ……んしょ……あなた、いっぱい綾香とえっちして……  
綾香のおっぱい、こんなにおっきくしてくれありがとう」

「ん……だってえ……あなたのおちんちんを、こうやって……  
おっぱいでグチュグチュってしてあげられるもん」

「綾香、処女JKだったのにい……あなたが……  
綾香の体を変えて、キスもえっちも教えてくれたのぉ」

「あなたが教えてくれたから……  
綾香……ね、見てて……くちゅくちゅ……えれ……」

「んっ、こうやって、唾いっぱい垂らして……滑りを良くして……  
おっぱいもっと激しく……出来るよ……！」

「気持ちいい！？ 嬉しい、もっとしてあげる……！  
んつ、ふうつ、ふうつ、ああつ！」

「咥えて、ほしい？ うん、いいよお……。  
ぐちゅ、じゅぷつ、じゅるるるるるるつ！」

(以下、咥えたまま)

「ふはあつ、んつ、んつ、しょっぱあい、  
んふふつ、おいひい……んつ、ぐぷつ、ぐぷつ」

「あふつ、ふう、んぷつ、手、手も、使うね……  
んうつ、じゅぷつ、じゅるるるるつ！」

「ふつ……ふう……えるる……ふう……  
裏筋……血管……ドクドクしてるう……」

「んう、ドクドクしてるので、ベロに当たって、  
わかるう、わかるのぉ……はあ……じゅるるるつ！」

「んつ、ぐぷつ、じゅるるつ、んんうつ、  
ふあ、味、苦くなってきたよ……出そう……だよね？」

「んふふふつ、気持ちいいの～？ じゅぷつ、んぷつ、  
あなたがあ、ご奉仕に喜んでくれるの……嬉しい……」

「んうつ……うん、いいよお……口に……出して……  
うん……全部、飲むよお……あなたの精子、大好きい……」

「ん……おちんちん全部……口に入れたい……喉、使うね……  
んつ、じゅぷつ、じゅるるるるるつ、じゅぶぶぶぶぶつ」

「じゅぷつ、じゅぽつ、じゅるるるるるるつ、  
ふー、ふー、んつ、ぐじゅるるるるるるるつ！」

(途中で射精)

「ふー、じゅるるるるる、じゅるるるるるる……んんんつ！  
んんんんんんんつ！ んんんんんんんんんんんんつ！」

(口を離して)

「ふー、ふー、ん……ごくん……んう……ごくん……  
ふあ……濃いし、多かったよお……美味しかった」

「ん？ ほらあ、べー。ね？ ちゃんと、全部飲んだでしょ？」

「それにしても……これ……今日、2回目……だよね？  
すっごい多かったし、濃かったんだけど……」

「もしかして……エッチ出来なかつた間……  
一人でしなかつたり……なんて……」

「ほ、本当にしなかつたの！？ や……ご、ごめんなさい！  
あや、綾香……一人でえっちしちゃつて……」

「あなたが我慢してたなら、綾香も我慢すれば良かった……  
うつ……ごめんなさい……え？」

「一人で、綾香がどうやってたか……？ そんな……  
あ、あなたが教えてくれた通り、だよお」

「あ、綾香がJKの頃に教えてくれた一人えっち……  
他のやり方なんて知らないもん、あの通りにしてるんだよお」

「やってみせたら、許してくれるの？  
わかった……するから……見ててね……」

「んっ……こうやって……自分で……おっぱい揉んで……  
乳首……摘んで……ふう……」

「あ、脚、かぱあって開いて……蜜……指につけて……  
クリちゃん、いじめて……じ、自分で、指、挿れて……」

「はうつ……んんっ……あ、あなた……ね、見てないで……  
おっぱい、舐めて……約束したあ……お願い……あんっ！」

「ふああっ！ 乳首、舌でクリクリされるの……好きい……  
あっ、あなたに乳首吸われるの、好き、好き！」

「はあっ、自分でするより気持ち良すぎて、指止まらない……  
やあっ、こんな濡れて、グチョグチョ音がしてるう」

「一人ですとのと、全然違うよおっ……！  
一人でしてる時も、あなたとのえっち、想像してるのでい」

「あっ……ねえ、いく、いつちやう、やだあっ！  
綾香、自分の指でいくのやああっ！ あなた、あなたあっ！」

「ふああっ……口離しちゃ、おっぱい淋しい……  
え……おまんこ、舐めてくれるの……？ おねだり、したら？」

「あなたあ……綾香のおまんこ、舐めてくださいい……！  
はあ……おまんこの中も、クリちゃんも、全部舐めてえ……！」

「あああああああああんっ！ はあっ！ あああああんっ！」

「ああっ、イイ！ イイ！ ああああああああっ！  
クリちゃん、ペロペロ、はむはむ、されるのもお……」

「穴に舌入れられるのも、好き、好き、はあんっ！  
あああああああっ！ ずっと、ずっと待ってたのおっ！」

「はあ……うん、うん……寂しいおっぱいはあ、  
綾香が自分で、くうううんっ、いじ、いじりますう」

「はあんっ！ あなた、あなたあっ！  
ああっ、いく、あなたの舌で……好き、好きいいいいっ！」

「あああああああああああああんっ……！！」

「はあ……はあ……もう……今日、イキすぎて……  
膝……もうガクガクだよお……」

「はあ……ベッドであなたに抱きしめられるの、好き……  
ねえ……おちんちん、硬いの、当たってるよ……」

「うん……付けないでいいよ……ナマでして……  
綾香……もう、ゴムつきセックスなんて出来ない……」

「もう、焦らさないで……早く、来てえ……！」

「ああっ、入ってくるうつ！ ああああっ！  
ああっ、あなたの勃起ちんぽ好き、好きいっ！」

「あっ、ああっ、激しいっ！ 嬉しい、嬉しいよおっ！  
あなたのおちんちんがっ、赤ちゃん部屋に当たってるうつ！」

「はあっ、これ、これが欲しかったのぉっ！  
ああっ、気持ちいい、気持ちいいよおっ！」

「ああ、よかったよお、痴漢さんがあなたで……  
あなた以外に、感じたり、したくなかったからあ」

「綾香はあ、あなたの、あなたのものなのぉっ！  
処女JKだった綾香はあ、あ、あなたにいっ！」

「キスも、えっちも、フェラも、教わったの！  
あなたとえっちして、おっぱいおっきくなってえ」

「ナカも……お尻も……感じるし……  
一人えっちもしちゃう、えっちな子になったのぉっ！」

「全部、あなたが教えた、あなたが開発した体なのぉっ！  
綾香は、他の男なんか要らない、あなただけだよおっ！」

「あんっ、あんっ！ あなたのちんぽで感じて、  
綾香は、あなたのちんぽで、いくのぉ！」

「な、なんにも知らなかった綾香はあ、  
あなたのちんぽに、体、作り替えられてるのぉ」

「あああっ、あああんっ、はあ、ああっ、  
あんっ、そう、そうやって、ガンガン突かれるの好き！」

「で、電車で、痴漢のあなたに犯されるの、興奮したけど、  
こうやって、激しくされてえっ、はあああんっ！」

「ああっ、声も……あううつ、我慢しないで……  
おちんぽ舐めて、おまんこ舐められてえ……」

「はあ……二人で、ドロドロになるの、好きいっ！」

はあ、ああっ、ずっと、こうしたかったあ」

「あなたのおちんちんで、おまんこ、突かれたくて、  
ずっとずっと、寂しかったあつ！ ああっ、幸せ！」

「あなたに、抱かれて、幸せえっ！  
はう、ああっ、おちんちん、おつきくなつてくう！」

「はあっ、あなたの生ちんぽ、気持ちいいよおつ！  
ナマ、好き、気持ちいい、はあんつ、あなたあつ！」

「好き、好きいつ、キス……キスして……！」

「んふううううつ！ くちゅ、じゅるるるるつ！  
ふはあつ、じゅふつ、んんつ、んふうつ！」

「ああんっ！ おっぱい、揉まれるの、気持ちいいっ！  
おまんこも、おっぱいも、愛してえっ！」

「はあっ、はあっ、あなたあつ  
愛して、愛してるよお……もっと、キスう……んうつ！」

「んんっ、んんんっ、んんふっ、ふあっ、じゅふっ、  
んんんっ、ふはあっ、んばっ、んふうっ！」

「ふはあつ、ああつ、もう……いく、綾香、いく……  
ああつ、嬉しいよお、あなたのおちんちんでイケるの……」

「綾香、一人でイカなきや……だめえ？  
あなたも、一緒に、イってくれる……？」

「はあ、一緒がいい、一緒にいこう……？  
はあ、はあ、綾香のおっぱいとおまんこで」

「いっぱい、おちんちん気持ち良くなって……  
ナマまんこに、力出して、精子びゅーびゅー掛けてぇ！」

「はあ……ああんっ……うんっ、うんっ……！  
赤ちゃん作ろ あなたの赤ちゃんほいよ！」

「綾香が妊娠するまで、いっぱい精液出して……  
あなたの精液で、綾香の子宮いっぱいにしてぇ！」

「あつ ああ もう 繰香 イク イク ！」

「あああああああ、熱いっ、精液、精液出てるうつ！  
はあっ 好き あなたの精液好きだ上おつ！」

「んんっ、濃厚精子が、綾香の子宮に入ってくるう

んう……お腹、あつたかあい……」

「……あつ、離れちゃいやだよお。  
まだ抜かないで？ このまま、だっこしてほしいな」

「ありがとう……、綾香のわがまま聞いてくれて。  
ずっと寂しかったから、こうして繋がってたいの」

「んふふつ……ありがとう……大好き……  
愛します……ちゅつ……」

(間)

「そういえば、今更だけど……お仕事は？  
え？ 今日は有給取ってる？」

「ええっ！？ 綾香と痴漢プレイしたくて……  
今までお仕事詰めて頑張ってたのぉ！？」

「じゃ、じゃあ書類を持ってきてって電話したのは……  
え、それも嘘なの！？」

「はあ……もう、ばかばかばかー！  
綾香、本当に寂しかったんだからね！」

「それに……あんなに無理して、体壊したらどうするの？  
本当に、心配してたんだからね！」

「わかってくれたなら、いいよ。  
え？ ち、痴漢プレイの感想？」

「そ、そりや……す、すごい感じちやったし……  
あ、あなたがしてくれてたってわかつたら……その……」

「スリルがあって、あれはあれで、たまにはいいかなー？  
なんて……はい……」

「はうう……綾香、どんどんえっちな奥さんになっちゃうよお。  
痴漢プレイまで……好きになっちゃって……」

「……責任、取って、綾香のこと……  
いっぱい愛してくださいね、あなた」

「うふふつ、だーいすき！」

## //ボーナストラック

(モノローグ)

「また、来ちゃった……後ろに……あの人……  
ううん……痴漢さんがぴったり立ってる……」

「もう……おちんちんが勃起してる……  
綾香のお尻に……痴漢さんのちんぽが押しつけられてるんだ……」

(肉声)

(小声で)

「……また……ですか……？」

「あ……あの……おちんぽ、擦り付けないで……  
スカート……めくれちゃうからあ……」

「はあ……はあ……だめ……下着……出ちゃう……  
あっ……お尻……手で……触らないで……つ！」

「ん……あ、あの、違うんですう……はいてます……  
てい、ティーバック……ですけど……」

「ひうつ……割れ目、触っちゃ……いや……  
だめ……今日の下着……恥ずかしいやつなんですう……」

「は……指で……あそこ広げないでえ……  
今日のパンツ……お股のとこ、空いてる……から……」

「あ、あそこ広げられたら……パンツごと……  
くばあって……開いちゃうんですけど……だめえ……」

「ふああ……だめ……お尻まで広げちゃダメ……  
このパンツ、お尻の穴まで、お股のとこ割れてるからあ……」

「んうつ……お、おちんぽ……割れ目に当たってますう……  
お尻のそこ……おちんぽで直に擦らないでえ……」

「ふ……んんつ……だめ、だめですう……  
夫がくれた下着で……夫が、着けてって言ったの」

「夫のため、なんですう……  
ちか、痴漢の為なんかじゃない……」

「やめて、お願ひ……擦らないでえ……  
も、もう、知ってるでしょう……？」

「あ、綾香……お尻、擦られると……  
濡れちゃうって……んふうつ……やだ、やだあ……」

「あ……やだあ……おちんぽの先でえ……

ヌレヌレおまんこ……グリグリしないで……！」

「や、やだ、は、入っちゃう……やだあ……  
あっ、で、電車……電車揺れてますからあ……」

「ほ、本当に入っちゃう……生ちんぽ入っちゃう……  
やだ、やめてえ……んん……やだあ……つ！」

「あっ……！ ん、んんんんっ……！」

「やだあ……抜いて、抜いてください……  
全部挿れちゃ嫌、嫌ですう……お願い……んんんっ！」

「んっ、んんっ、奥、奥のそこ……そこ……っ！  
んんっ、はう、あっ……んんんうっ……！」

「はあ……はあ……や……もう……知ってますよね……  
綾香、奥の、そこお、弱いのお……」

「はう……やだあ……痴漢、なのにい……  
あっ、あふうつ、あんつ、あんつ……！」

「そ、そんな……綾香の好きなところばかり……  
されたら……綾香……このまま……もう……！」

「んんんんんんんんんっ……！  
んふううううううううううっ！」

「はあ……はあ……イッちゃった……  
んう……待ってえ……腰、止めてえ……」

「イッたばかりだからあ……敏感なの……  
あなたのおちんぽ……もっと……感じちゃう……」

「あっ……んう……おっぱい、触らないで……  
今日……ノーブラなの……触っちゃだめえ……」

「はあっ……あんっ……ああんううっ……  
おっぱい、その触り方、好き……あっ……！」

「乳首、ぎゅってしちゃ……ああっ、んふうううっ、  
お、おまんこ締まっちゃう……！」

「はあ……もっと……優しくして……  
あ、綾香……ノーブラ、恥ずかしかったの……」

「恥ずかしかった、けど……この方が……  
痴漢さんが……触りやすいかなって……」

「ち、痴漢さんにい、乳首クリクリしてほしいって、  
き、期待……期待して……ブラしなかったの……」

「ねえ、ねえ、痴漢さんの……ためにしたの……  
だから……ね……もっと……優しく……」

「あっ……やだ、ブラウスのボタン……外しちゃ……  
おっぱい、おっぱい出ちゃう……」

「はあ……はあ……全部出ちゃった……  
周りから、み、見られちゃう、綾香のおっぱい……」

「あっ……！ 冷たい……！ ドアの窓に……  
おっぱい押し付けるの、ちょっと、苦しい……」

「でも、こうしてたら……  
周りからはおっぱい見えないかも……よかったです……」

「はあ……冷たくて、乳首もつと立っちゃう……  
気持ちいい、はあ、あっ……！」

「腰、はげし、激しいですう……！  
そんな、押されちゃ……く、苦し……！」

「はんっ、あんっ、嘘、嘘ですうつ……  
苦しいだけじゃなくて……き、気持ちいいですう……！」

「あっ……？ あっ、やだ、電車が……！」

「あっ……！ う、嘘……！」

「電車が、すれ違ってく……！  
あ、あふっ、ああっ、見られてる、ああっ……！」

「今、男の人、びっくりして、綾香見てたあ……  
あっ、今の人も、あふっ、あっ、またあ……！」

「何人にも、見られちゃったよお……  
うつ、ひつく、は、恥ずかしい……！」

「あっ、あうつ、ど、どうしよう……  
ば、ばれちゃったかなあ……！」

「綾香が……痴漢されたくて……  
おっぱい出して……ハメハメされてるのよ……」

「はあっ、う、嘘、おちんぽ……おっきくなりましたよ……  
綾香のおっぱい見られたの、興奮しましたか……？」

「はあ……あっ……おちんちん、おっきくて……  
き、気持ちいい……ああ……また電車来る……」

「痴漢さんが、嬉しいなら……  
綾香……み、見られてもいい……！」

「はあんつ……！ また……見られた……  
知らない人が、見てる……んんんんんつ！」

「はあ、はあ……今、綾香、えっちな顔してる……  
おまんこで感じてる顔まで、見られちゃって……」

「はう、ああつ、感じ、感じるよおつ、  
や、やあ、腰、強い、強いですう……！」

「だ、だめ、今……すごく……感じてて……  
弱い所だけ、ゴチュゴチュされたら、綾香あ……」

「あ、や、やあ、また電車来る、  
また見られちゃうつ……！」

「は、はあ……どうしよう……  
えっちな顔見られながら……激しくされちゃう……」

「んんうつ、はあつ、ああつ、  
綾香のおっぱい、夫のものなのに……！」

「綾香のえっちな顔も、夫のものなのに、  
こんなに見られて……あ、ああつ……！」

「ま、待って、これ、凄いのきてる……  
最近、覚えたの……夫と……えっちして……」

「夫のちんぽで覚えた……凄いのきちゃう……  
だめ……ここじゃ……ああつ、待って、待って……！」

「ああつ、痴漢さんも射精しそう、ですよね……  
あ、あう、精子、精子ほしい……ああうつ……」

「ああつ……綾香も我慢できない……  
でも、これ……あつ、出ちゃう、出ちゃううつ……！」

「んんんんんんんんんんんんんんんつ！  
んんつ、精子出てる、精子……ああ、我慢できない……」

「やああつ……  
潮吹き止まらない、止まらないよおつ……！」

「はあ……はあ……ど、どうしよう……  
こ、こんなびしょびしょに……！」

「お、降ります降ります！  
ほら、いいから、あなたも……！」

(間)

「はあ……はあ……  
あ、危なかったね……」

「次からは、気を付けないと……  
見つかったら、大変だもんね……」

「あ……あう。  
それは……次も、期待するよ……」

「だって綾香……痴漢されるの……  
その……好きになっちゃった……というか……」

「あ、ちがうよ！？  
もちろん、あなたにって意味だからね」

「綾香を気持ち良く出来るのは、  
綾香のこと何でも知ってるあなただけだもん」

「あなたも、他の人にしちゃダメだよ？」

「綾香……頑張って、どんなえっちなことだって、  
叶えてあげるから……」

「これからも、綾香だけを可愛がってね。あなた♡」

END